

令和元年度 第2回 窯業技術研究所運営委員会 会議録

日 時：令和2年2月28日 10時00分から11時30分まで

場 所：瑞浪市窯業技術研究所 2階 資料室

出席者：委 員 田口典宏（委員長）、塚本哲也（副委員長）、三浦彰治郎、水野安喜、
小島史昭、松崎捷也、和田 孝、足立公子

瑞浪市長 水野光二

事 務 局 鈴木創造（経済部長）、小木曾昌弘（商工課長兼窯業技術研究所長）、
安齋久嗣（所長補佐兼技術開発係長）、大野万里子（主任主査兼管理係長）

欠 席 者：委 員 加藤精三、加知節男、水野秀伸、河口建喜

1. 開 会

【事務局】

それではこれより令和元年度第2回窯業技術研究所運営委員会を開催させていただきます。

2. あいさつ

【経済部長】

市長が遅れますので代わって挨拶させていただきます。日頃、窯業技術研究所の運営に御尽力いただきありがとうございます。

窯業技術研究所の事務所の移転について、産業全体の活性化ということで観光分野でのこ入れと体制を強化するために観光協会を法人化して事務所を1階に置き、情報発信の拠点にしていきたいという構想がありますので、ご意見をいただきたいと思っております。

新分野開拓事業については、新たな3Dシステムを導入しましたので見ていただき、色々なご意見を頂くとともに、ご利用いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして田口委員長からご挨拶よろしくお願いいたします。

【委員長】

本日はご多用のところ、ご出席を賜りありがとうございます。陶磁器産業は瑞浪市の発展を支えてきた地場の産業であるという事を念頭に、今後もみずなみ焼、美濃焼のPRに努めていきたいと思っております。また、コロナウィルスの影響で我々の業界にも影響が及んでくるかと思っておりますが、連携を取り合いながら対応して行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。本日はこういった状況でありますので皆様にマスクを配布させていただきます。

本日は運営委員12名のうち8名のご出席をいただいております、過半数の出席がありますので運営委員会規則第4条2項の規定により、本委員会は成立しています。また、本会議は公開で行われます。

これより議題に入ります。進行は運営委員会規則第4条により、委員長が議長を務めることになっておりますので田口委員長をお願いいたします。

3. 議 題

【議 長】

議事を進めます。議題（1）事務所・試験室の移動について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

お手元のカラー刷りの図面資料をご覧ください。窯業技術研究所については、現在1階に事務所と試験室、2階に切削室とデザイン室、更に屋外に作業棟がございます。3箇所職員が業務をしております。先ほど経済部長より話があったとおり、1階部分を観光協会の事務所に転換していくという構想がございますので、窯業技術研究所の事務所・試験室は2階へ移動して業務を行うことを現在

考えております。

現状では平成31年4月から窯業技術研究所の職員が1名減って2名となったことから、臨時職員もおりますが、一箇所に集約して効率化を図るという考えもありましたので、観光協会の法人化と合わせて、執務場所を2階に集約させていただきたいという案でございます。この事について皆様からのご意見・ご質問を賜りたいと思います。

【議 長】

それでは、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

【事務局】

移動後の2階の配置ですが中央が事務所・デザイン室となり、南側が試験室、北側が切削室となります。

【議 長】

業務に何か支障はありますか。

【事務局】

試験、試作の依頼に来た方々に2階まで上がっていただくことになるのですが、観光協会を2階にというわけにもいかないので、このような案で進めたいと思っています。

【委 員】

今までの観光協会はどこにあったのですか。

【事務局】

今まで観光協会は商工会議所の中に事務局がございました。事務局が正式にあったというよりも、商工会議所の職員が商工会議所の仕事をしながら、観光協会の業務をしていたというのが現状でした。ただ今回は観光協会の法人化をいたしますので、専属の職員を雇って独立した組織として活動していくことから事務局を新たに構えるということでございます。

【議 長】

4月からですか。

【事務局】

実際には引越し作業がございますので、1階の試験機器を2階に移動したり、棚の撤去などの整備が必要でありますので、実際2階に移動するのは、5～6月ころになる想定です。

【議 長】

他に質問等が無いようでしたら、改めて市長さんから挨拶をお願いします。

【市 長】

会議に遅れまして申し訳ありません。日頃、地場産業の振興のために窯業技術研究所が果たしている役割と言うのは高く評価させて頂いておりますが、世の中もどんどん変わってきており、それぞれ企業さんたちの考え方、取り組みも変わってきている状況です。また、地域の環境も色々な形で変わってきていますので、将来的にはここは商品やデザイン開発等に特化していくべきという思いですので、委員の皆さんには窯業技術研究所を今後どのような形で活用していくべきなのか考えていただきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

【議 長】

それでは議題(2)3D切削機のデモンストレーションへ移りたいと思います。

【事務局】

デモンストレーションの準備に少し時間がありますので、その間に窯業研究所の状況をお伝えさせていただきます。ご承知のように4月から依頼試験項目を減らして実施しています。現在の状況ですが、昨年2月と照らし合わせますと、試験・試作に関しては項目自体が減りましたので、件数は1,200点ほどございましたのが、600点ほどに減っています。ただし、手数料に関しては料金の値

上げをしておりますので件数は半減しておりますが、5%ほど同時期より増えております。

また、職員が1名減っておりますが、企業向けの技術講座に加えて市民向け講座を開催したり、瑞浪小学校の3年生の地場産業を知る授業のための施設見学に対応したり、瑞浪中学校の職場体験の受け入れなど、新たな取り組みも行っておりますのでご報告させていただきます。

それでは、これから3D切削機を見て頂きたいと思っております。5月の運営委員会で3D切削機の導入についてご説明をした際に、実際に稼動しているところを皆さんに見て頂きたいとお話していただきましたのでご案内させていただきます。

【事務局】

こちらが新たに導入した切削機になります。今までと違う点として切削工具を自動で交換する「オートツールチェンジャー」という新たな装置がついています。これにより切削時間の短縮を図ることができるので、依頼試作については従来よりも更に早く対応することに繋がります。これから実際に操作してみます。

—3D切削機の操作説明、切削の稼動実演—

【事務局】

折角の機会でございますので、何かご質問があればいかがでしょうか。

【委員】

カタログには500万円と書いてあるが、実際の購入金額は。

【事務局】

カタログは機械本体のみの価格ですので、その他にパソコンやコンプレッサー等の付随した装備を含めて約700万円になります。

【委員】

試作を依頼したときの手数料はいくらくらいになりますか。

【事務局】

おおよそ3万円前後になります。積算としましてはデータ作成料が1時間につき3,000円、稼働時間1時間につき500円、その他材料に係る費用の合計です。材料については、石膏や樹脂材を切削することが出来ますが、依頼としては石膏が多いです。

【議長】

他に質問等が無いようですので、これを持ちまして議題については終了とします。皆様のご協力ですmoothな進行となりました。ありがとうございました。

4. その他

【事務局】

これで本日の予定は終了となりますが、皆様の運営委員の任期は3月末で終了となりますので、ご承知おきください。

これにて第2回運営委員会を終了させていただきます。本日はお忙しいところ誠にありがとうございました。